

5/3AM6:00、小雨の中、参加者4名が車に同乗して松本を出発。AM7:00、乗鞍高原鈴蘭に到着。乗鞍岳は雲に覆われて望むことが出来ない。駐車場で2名と合流し、総勢6名で一台の車に同乗し三本滝へ向う。ここに車を置いて、登山装備を整えAM8:20発の発位ヶ原行バスに乗り込む。バスは、蛇行する山道にエンジンを唸らせ登る。道の両脇には、高さ3~6mの雪壁が続く。AM9:00前、霧に煙る位ヶ原山荘に到着。



位ヶ原から仰ぐ霧雲に煙る乗鞍岳



位ヶ原山荘の夕食、シカ鍋で乾杯



5/11 朝陽が差し込む位ヶ原付近

今日の天候の回復は無理と諦め、小休憩の後、登山身支度をして、雪山を30分ほど登る。ダケカンバ林の脇を抜けると、雪の斜面が広がる。この斜面を利用し、ピッケルを使用した雪上訓練を行う。滑落停止訓練を繰り返し行う。1時間ほどで訓練の後、位ヶ原山荘へ帰還する。山荘内では、コタツが用意され、暖まりながら、持参した昼食を摂る。この日、このまま沈殿と決め、明日の好天を期待する。



AM7:00 山荘を出発、雪斜面を登る



先発グループのトレース



天候が急変、風雪が吹き荒れ始める

5/4、夜来の雨が止み、朝陽が射し込み、霧に煙る西の空に虹が浮かんでいる。見通しが利くが、一抹の不安がよぎる。AM7:00山荘出発。当初、先発するグループのトレースを頼りに登る。1時間ほどで、肩の小屋下部の、今は雪に埋まる公衆便所建物に辿り着く。ここでアイゼンを履き、登り始めると、雪面を吹き降ろしてくる風が強くなり、トレースも消え、視界50m~100mのホワイトアウト状態となる。



風雨が顔に痛い、頂上直下



バンザーイ！、全員見事登頂



スキーツアーコースを下山

数グループの10人ほどの登山者が、登れないと諦め下山してくる。私達は、見えない真白な雪面に見当をつけ、深いラッセルに悩まされながら登り続ける。上へ上へ登り続け、3時間かけて、稜線に登り出る。雪交じりの風が、顔に痛く吹きつけてくる。岩と雪の尾根道を登り詰め、PM11:45凍て付く乗鞍岳3026m山頂に、全員見事登頂する。「バンザーイ！。おめでとう。」

風を避けて、祠の建つ岩陰で、山荘で作ってくれたおにぎりを頬ばり、30分ほど休憩の後下山を始める。頂上近くの稜線から雪庇を避けて、30度の雪斜面を滑り降りる。視界の効かない濃霧の中、雪崩を誘発しないように縦列で、真白な世界をひたすら降下を続ける。



AM7:00 位ヶ原山荘を出発。ダケカンバ林を抜け、雪斜面を登る。



肩の小屋下部でアイゼンを装着。この頃から天候が急変し、風雪が吹き荒れ始める。

途中下山路に迷うが、森林帯に出て、スキーツアーコースを下ることが出来、PM3:00 三本滝に到着。その後、乗鞍高原鈴蘭の湯けむり館で一汗流し、最終的に PM5:00 松本に無事到着、解散とする。

「春の乗鞍岳登山は、天候が崩れると風雪が吹き荒れ、ホワイトアウトとなる事を教えられた講習だった。」

MHC 登山講習責任者 MHC 理事長 鈴木雅則